

授業概要

目にも見えず、手で触れることもできず、鼻でにおいを嗅ぐこともできない。しかし、この世界に確かに存在するもの、それが「時間」である。人間の脳髄は「時間」を捉え、様々な思索を巡らしてきた。それはしばしば強力な思想となり、政治的实践すら左右してきたのである。本講義では、人間の「時間」に関する思索、特に日本のそれを検討できるよう講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	時間は存在しない？—道家思想・初期仏教
第 3 回	めぐりくる時間—密教・浄土信仰
第 4 回	取り戻せ理想世界—尚古思想と儒教
第 5 回	人の営みを記録する—『神皇正統記』『愚管抄』
第 6 回	“無常”としての時間—『徒然草』『方丈記』鎌倉仏教
第 7 回	戦乱という名の極楽—武士の時間
第 8 回	始原と終焉—キリシタンと排耶思想
第 9 回	歴史ほど素敵な商売はない—朱子学と歴史好み
第 10 回	生き躍る時間—伊藤仁斎と古義堂
第 11 回	歴史主義の胎動—徂徠学
第 12 回	「尚古」の換骨奪胎—本居宣長と平田篤胤
第 13 回	回帰する時間—幕末の思想空間
第 14 回	アナキカル・レボリューション
第 15 回	文明論と近代化—福沢諭吉と『明六雑誌』
第 16 回	期末試験

到達目標

日本思想に関わる文献の中から妥当なものを自力で選択できる。
他文化の混合物としての日本文化の在り方を理解し、他人に説明できる。

履修上の注意

履修に際して、専門的な知識は不要である。
遅刻の有無は成績に影響しないが、平常点はコメントペーパーの内容で評価する。
騒音・食事など講義の妨げになると思われる場合は退出を命ずることがある。なお、なにが「講義の妨げになる」かは講師が判断する。

予習・復習

本講義の性質上、日本史について高校教科書などを用いて予習することが望ましい。また、講義後は以下に示すテキストとノートを照らし合わせながら読解することで、高い学習効果が得られるであろう。

評価方法

筆記試験 70 点。平常点 30 点。平常点について：講義ごとに意見・感想を書いたコメントペーパーの提出を求める。提出されたものの内、講義に資すると思われるものは次回講義の冒頭で紹介する。1 回紹介されるごとに平常点 3 点を加算する。単に出席するだけでは成績に結び付かないので、留意すること。

テキスト

講義ごとに資料(プリント)を配布する。また、参考テキストとして苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』(新書館,2008,ISBN:978-4-403-25094-1),佐藤弘夫・平山洋編『概説：日本思想史』(ミネルヴァ書房,2020,ISBN:978-4-623-08832-4),苅部直『日本思想史への道案内』(NTT 出版,2017,ISBN: 978-4757143500)などを用いるので、各自で適宜参照すること。